

足元の原油価格の動きと
MLPの動向

楽読(ラクヨミ)

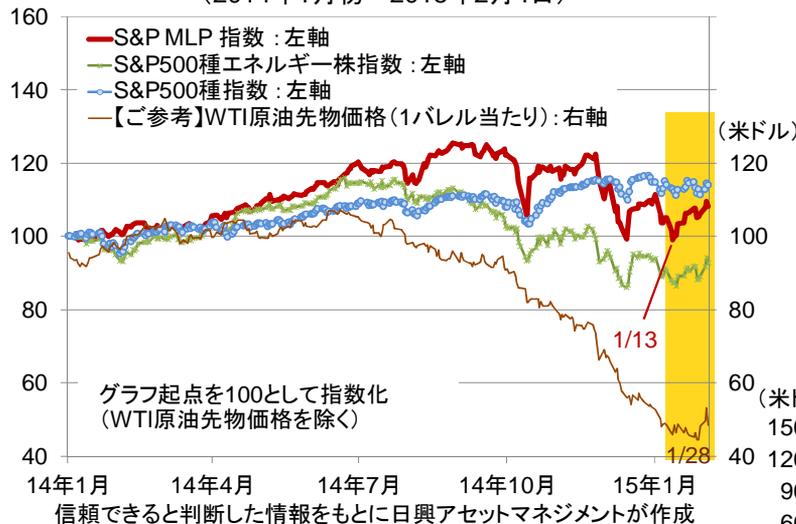
nikko am
fund academy

足元で、原油価格の変動が大きくなっています。WTI原油先物価格は、EIA(米エネルギー情報局)が発表する週報において、米原油在庫が1982年8月の集計開始以来最高となったことが嫌気され、1月28日に1バレル＝44.45米ドルと2009年3月以来の安値を付けました。その後、米国の石油掘削装置(リグ)の稼働数が3年ぶりの水準に落ち込んだとの調査レポートを受け、米原油生産の抑制観測が広がったことから、WTI原油先物価格は2月3日にかけて約19%上昇したものの、翌4日に米原油在庫が4週連続で増加したことが確認されると、再び供給過剰懸念が強まり、前日比▲8.7%と大きく下落しました。一方、MLPは、足元で原油価格の動向を受けた投資家心理の振れに左右されながらも、比較的しっかりとした値動きとなっています。これは、1月中旬以降、原油価格の下落ペースがやや和らいだことに加え、2014年10-12月期の配当が公表され、MLPに対する投資家の信認が広がったことなどが背景と考えられます。S&P MLP 指数の構成上位10銘柄(指数時価総額の約60%を構成)の中で配当公表済み(2月4日時点)のMLP(9銘柄)のうち、前期と同額だった1銘柄を除き、すべて増配となりました。

EIAによると、WTI原油先物価格は2015年1-3月期に底を打ち、その後、2016年にかけて上昇する見通しとなっています。しかしながら、供給過剰に対する警戒感は根強く、米原油在庫の動向やOPEC(石油輸出国機構)加盟国の要人の発言などを受け、原油は当面の間、値動きの荒い展開が想定されます。このようななか、MLPの価格も、引き続き、その煽りを受ける可能性は高いと考えられます。ただし、ここ数カ月の価格下落を受けMLPの配当利回りが魅力的な水準となるなか、決算発表などを通じて今後も安定的な配当成長見通しが維持されるようであれば、本来、原油価格の下落のマイナスの影響を受けにくいとされる貯蔵・輸送など「川中」に位置付けられるMLPを中心に、投資家の間で再評価の動きが広がる可能性が考えられます。今後も、原油価格動向とともに、MLPの決算発表内容などにも注目が集まるとみられます。

主な資産の指数推移(米ドルベース/トータルリターン)

(2014年1月初～2015年2月4日)



S&P MLP 指数構成上位銘柄*の配当伸び率

(2014年10-12月期) *2015年1月末時点

	銘柄名	分類	指数 構成比	配当伸び率 (前期比)
1	エンタープライズ・ プロダクツ・パートナーズ	石油・ガス貯蔵・ 輸送	15%	1.4%
2	エナジー・トランスファー・ エクイティ	石油・ガス貯蔵・ 輸送	10%	8.4%
3	プレーンズ・オール・ アメリカン・パイプライン	石油・ガス貯蔵・ 輸送	6%	2.3%
4	マゼラン・ミッドストリーム・ パートナーズ	石油・ガス貯蔵・ 輸送	6%	4.1%
5	エナジー・トランスファー・ パートナーズ	石油・ガス貯蔵・ 輸送	6%	2.1%

*分類は、GICS(世界産業分類基準)に基づく

WTI原油先物価格(1バレル当たり)の推移

(2003年1月～2016年12月予想)



※ 個別銘柄に言及していますが、当該銘柄の売買等を推奨するものではありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組入れまたは売却を示唆するものでもありません。

※ 上記は過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。